第４回福岡県生物多様性戦略専門委員会（議事要旨）

１　開催概要

日　時：令和４年１月 21 日（金）13 時～15 時 10 分（オンライン会議）

出　席：朝廣和夫委員長、清野聡子副委員長、岩熊志保委員、宇根豊委員、上村真仁委員、須田隆一委員、馬場稔委員、皆川朋子委員(委員は五十音順)

欠　席：勢一智子委員

２　議題

（１）第１章～第３章について
（２）第４章について
（３）第５章及び第６章について
（４）資料編について
（５）パブリックコメント等について
（６）概要版（案）について
（７）戦略策定スケジュール（案）

３　議事概要（○＝委員発言、●＝事務局発言）

（１）第１章～第３章について

●事務局から資料１に沿って説明

(委員質問・意見)

○６ページ13行目、「他の生きものや生命（いのち）と直接的・間接的に「つながり」」とあるが、書くとしたら「他の生きものの生命（いのち）と」になるのではないか。

○12ページ、新型コロナウイルス感染症が「いまだに猛威をふるい」とある。この戦略の計画期間は2026年までであり、この間どうなるか予測がつかないため、表現を変えた方がいいのではないか。

○74ページ、Eco-DRRの英語表記で「disaster」が抜けている。

○89ページ、マダイの写真は縦横の比率が変わっているのではないか。

○44ページ、弥生時代の始まりが2500年前とあるが、先日発刊された「ちくま新書」(事務局注：設楽博己著、縄文vs.弥生）では2900年前と書いてある。奈良県の国立文化財研究所に勤務していた知人にも確認したが、学会では2800年ぐらいでほぼ合意しているとのことであった。せめて2800年ぐらいまでは遡るのが常識ではないか。

○45ページ22行目、「化学肥料が使われるようになり、1930年代には有機質肥料の消費を上回る」とあり、続けて「このため、緑肥などの供給地であった二次草原の利用価値が低下」とある。いかにも1930年代に二次草原の減少が始まったように受け取られてしまうのではないか。二次草原の利用は1960年代の前半までは残っていたので、この文章では誤解を生みやすい。1930年代の化学肥料生産量は分かると思う。この時代の有機質肥料の使用に関する統計は多分ないので、ここまで言い切るのは難しいと思う。データが曖昧であれば、年代をはっきり書かないほうがいいのではないか。

○13ページ。ワンヘルスに関して、動物の健康、動物の福祉という視点が全くない。ヨーロッパでは、動物の福祉は当たり前になっている。もし可能であれば、「動物の健康」のところで、動物の福祉にも配慮した畜産、飼い方についてペットも含めて考える。単なる人間に対する病気の予防ということだけでは、動物との関係があまりにも一面的ではないかというのが私の意見である。

○90ページの「生物多様性を支える活動に関する現状と課題」について、小学校からの環境教育だけでなく、幼稚園や保育園についても記述してもらいたい。

○２ページ「生物多様性とは」の「生きものに支えられる私たちの暮らし」の２段落目、「そのためには、生きものを賢く利用する知恵を継承するとともに、新たに生み出し、持続可能な利用のための適切な社会経済的な仕組みをつくることが必要です」のところに保全の要素も加えてはどうか。

○同ページ１行目の「生きものの恵み」について、自然環境、例えば、水の循環や生態系なども人の暮らしを支えているので、生きものを含む環境ということが記述されるとよりわかりやすくなるのではないか。

（２）第４章について

●事務局から資料１に沿って説明

（委員質問・意見）

○2050年の各地域のイメージは、エコロジカルネットワークのようなイメージが入るといいのではないか。イメージとして分かりやすいのは「都市」だと思う。

○98ページの「森林」に、「自然災害への備えとしても」という記述があるが、「生きものに配慮した林業」とも書いてある。森林、特に林道のあり方なども議論されており、それが災害につながっているということもある。イラストに一言でも「災害に強い」という言葉を入れてはどうか。

○96ページの枠内、「他の生きものや生命（いのち）とつながりあって」の記

述は、第１章と併せて検討をお願いしたい。

○自分なりの気づきというか、入れてほしい言葉が一つある。例えば、97ページの４行目に「身近な自然や生きものに関心を持ち、その変化を感じ取る人が増えています」とある。その変化の一番大きなものは、季節を感じるということである。季節は生きものが伝えている部分が圧倒的に多い。紅葉した、新緑が出た、トンボやツバメが飛び始めた、あるいはカエルが鳴いたなど、我々は生きものから季節を教えてもらい、告げられている。つまり、生きものや生物多様性によって、もっと言えば食べ物もそうであるが、自然の移ろいや変化を感じているので、「季節を感じる」という表現を入れてほしい。

○99ページ、農村が生活し続けられる場所というか、人口減少で消滅していく集落も多いのではないかという危惧もあるが、やはり人が住み続けられるということが二次的自然における生物多様性を維持していく上での一つの重要な要素でもある。特に福岡は都市と農村の距離が非常に近く、自然を取り入れた暮らしができる場所として田園回帰が進んでいる。生活の場所としても豊かになって、自然と共生した暮らしが営まれているというようなことが追記されると更に良くなると思うのでご検討いただきたい。

○先ほど御指摘のあった「他の生きものや生命（いのち）とつながりあって」という文章は、空間的な生きも同士のつながりということと、もう一つ、歴史的・進化的なつながりというものを意図したものと思われる。

○「つながり」の意味が、生きものと生きもの、命と命のつながりという面が少し強く出すぎている。もちろんそれが一番大事ではあるが、世代間のつながり、親と子、先祖と子孫がずっとつながっている、命が引き継がれていくという面もあるので、その意味も含むような表現を入れると伝わりやすくなると思う。

○一般の人にその意図が伝わるように事務局で検討してもらいたい。

（３）第５章及び第６章について

●事務局から資料１に沿って説明

(委員質問・意見)

○166ページの数値目標、資料20ページの数値目標には、ヘクタールという記述が多い。全て入れる必要はないし、統計的に難しいものもあるかもしれないが、対象となる全体の何パーセントと入れてはどうか。

○数値目標とその時間的なターゲットの両方が示されており、また、それぞれの数字の根拠も出されて良かったと思う。一方、SDGsの2030年、2050年のゴールとも関係するが、今回目指す2050年をどのように決めたのかについて補強するとよいのではないか。生物多様性の保全は急に努力してできるもので

はなく、生きものが急に変わるわけでもないので、何かを達成するためには、それくらいのスパンが必要ということなのか。

○2030年、2050年という目標設定の根拠というものが明確に示されていると、よりいいのではないかという御指摘である。20ページの計画期間との対応である。

○個別施策の計画スパンが、そこまで長期的に見ているかどうかはそれぞれだと思う。大きいターゲットと個別施策のターゲットについては合うものもあるし、合わないものもあるかもしれない。

●国家戦略や国際的な枠組などが2050年を目標にしているということを踏まえて、現行戦略は2050年を目標としている。先日１月19日に環境省の生物多様性国家戦略小委員会が開催されており、会議資料として次期国家戦略の骨子案が示されていた。2050年までの過程として2030年が位置づけられ、長期的には2050年というかたちで構築されていくようなので、そことの整合をとった考え方となる。

○もともとのところでなぜ2050年なのかというところも調べられる範囲で記述できればと思う。ここ10年ぐらいで気候の変化が激しくなり、国際的にターゲットとしているものがなかなか達成できていないことが2020年の段階で分かったなど、コラムなど可能な範囲で記述できればと思う。

○115ページ、福岡県生物多様性情報総合プラットフォームが作られ、地理情報システムも整備されることになっているが、両者のつながりを確認したい。

○いわゆる普通種、希少種ではない一般の生きものの情報は取り上げられる予定か。

○153ページの人材の育成、161ページにも教育・研究機関の役割で人材の育成と書かれている。こう書くしかないと思うが、おおもとの人を育てるところが大学でもだんだん少なくなっている。これは県の責任でも何でもないが、意見ではなくぼやきである。

●施策の整理上は、目標１－１の情報の発信・提供システムとしてのプラットフォームと、156ページ目標４－２の地理情報システムの活用で別々に記載しているが、基本的にはプラットフォームは地理情報システムも含んだ一体のものとなる。これからレッドデータブックの改訂なども予定されており、その調査などで得られた科学的な情報、国の調査など、様々な情報を収集して地理情報システムに落とし込んでいきたいと考えている。

●普通種は、手持ちの情報が少ないと聞いているが、情報があるものについては入れる予定であり、今後も順次追加していく予定である。

○113ページ「ワンヘルスの森づくり」は検討中とあるが、具体的にどのようなことを目指されているのか可能であればお聞きしたい。

●他課の取組であり、現時点では、その内容が公表されていないため空欄にし

ている。

○2030年の目標は166ページに示されているとおり具体的になっていると思うが、2050年がよく分からない。例えば、2026年の目標、それは2030年でもいいが、その目標が2050年の目標のどの部分までを達成していくのか、それともベースを形成していくところなのか、その位置づけがよく分からない。9ページのポートフォリオの図にあるような2050年までの保全・再生イメージに基づく2030年なのか、そのあたりが少しでも記載できたら、2050年に対しての目標というイメージが湧くと思う。また、例えば、1年間に何人とか具体的に数値目標が設定されているが、そのペースでやっていく位置づけの2026年という理解になるのかお聞きしたい。

●96ページ「目指す社会」を2050年としているのは、先ほど述べたとおり、国も国際的にも2050年という目標があるので2050年を「目指す社会」としている。この「生きものを支え、生きものに支えられる幸せを共感できる社会」という目標はイメージであり、この2050年の目標に向かって、まず今後5年間、それに近づくためにどうしていくべきかという戦略を考えているというものである。

○なかなか難しいところだと思う。最大限の努力目標という位置づけになるという意味になるだろうか。

○県の戦略としては、この96ページに「目指す社会」として文章とイラストを書いている。先ほど言われた国家戦略の話もあるが、県の計画としては、この96ページに書かれている文章とイラストが2050年の将来像という位置づけになる。それに向けて、2026年までの5年間の各部局の施策と目標が設定されているものと私は理解している。この計画で2050年に本当に達成できるのかというところは曖昧性が多分に含まれているところだが、それはしっかりここに書かれているという意味で、随時、県民の方々や私たち委員がチェックしながら進捗を見ていくのが大事なところではないか。県の計画という範囲で見ると、そのあたりが読み手に伝わるといいかなと思うところであるが、ただ、国家的もしくは国際的な条約や取決めとの関係だといろいろな視点があるので、そのあたりは文言としては入っているところだと思うがいかがか。

○了解した。2026年できちんと評価をして、PDCAサイクルを回していく。状況も変わってくるし、そこも踏まえながら次の目標を設定していくことになると思うので、そういう記載が一言あると、より計画性のあるターゲットにもなってくるかと思う。

○2026年度の評価において、2050年のイメージの実現に向けてしっかり振り返りをする、また2026年以降の計画にこう反映させていく必要があるという点についてもう少し記載があってもいいかなと思うところである。

○108ページに、「行動計画の施策体系」として12の目標一覧が記載されている。これらの12の目標は、今後、県民や事業者に広く伝えていくと思うが、それには文章が長いので、略称のようなものを設定できれば便利だと思う。例えば、目標１－１では「生きものの豊かさを体感する」、あるいは１－３では「里地里山里海の恵みの継承」など。このように10字から20字程度で設定しておき、可能であれば引用可能な形で108ページあたりに記載してはどうか。

○先ほど事務局からも説明があった目標２－１のみに数値目標がないという点であるが、資料編の20ページ、現行戦略の数値目標に、自然公園と自然環境保全地域の面積が記載されている。次期戦略ではこれらの目標がなくなり、自然環境保全地域は、参考指標に移行したという説明であった。自然公園の面積については目標を達成したため継続しないということであれば分かるが、そうではない。次期生物多様性国家戦略骨子案でも「30by30の達成」が示されている。国内的あるいは国際的な最新の動向を踏まえて、再度御検討いただきたい。

●自然公園の面積は、見直しをしようとしている区域があり、そこがどうなるか分からないということもあって、次期戦略の数値目標としていない。自然環境保全地域については、あまり変えることがない地域であるので参考指標としている。12の目標の略称については、必要性も含めて検討する。

（４）資料編について

●事務局から資料１に沿って説明

(委員質問・意見)

○資料編の４ページと５ページにあるSDGsの17のゴールの訳文が微妙に違うので揃えたほうがよい。

○資料編の42ページ、「グリーンインフラ」にある「CO_2」の「2」という数字が下付きになる。

○用語解説は、例えば森林環境税などが抜けているので入れてもらいたい。

○この戦略に記載されている生きものの名前の索引があれば使いやすいと思うので、可能であればお願いしたい。

（５）パブリックコメント等について

●事務局から資料３に沿って説明

(委員質問・意見)

○全体的なことであるが、どこを修正したかが分かるように、修正した語句にアンダーラインを引いてもらいたい。

○環境審議会委員の整理番号１について、分かりやすくするということで、「COP10における20の愛知目標（2010年）」とあるが違和感がある。例えば、「COP10で採択された20の愛知目標」として、目標はその後の10年の話であるので括弧の2010年を取るなど、そういった修正のほうが、県民に理解してもらうためにはよいのではないか。

○別紙３「市町村意見」の№.３について。意見への対応では、就業機会の拡大の「農林漁業へ」しか語句が追加されていない。その前に「優れた自然や文化、伝統などの山村特有の資源」とある。関係課と調整の上でこういう修正になったと思うが、ここも「山村」に限らず、「農山漁村」としても差し支えないのではないか。

○別紙２「パブリックコメント」の№.３の海洋酸性化について。学術的に重要ではあるが、社会にあまり伝わっていないものに関する対応について、どう書いたらいいのかという観点で考えた。現在、九州大学工学部では海洋酸性化の採水のモニタリングを始めていて、日本全国の研究者によるネットワークの一部を担っている。記述するとすれば、「大学等で観測が始まっているが、この分野は海洋環境分野で議論されるものと把握しています」とするなど検討いただければと思う。

○私の感想めいたことであるが、先ほどカモとバンによる麦やハス・レンコンの被害という話があった。例えばフランスでは、麦をカモが食べたら被害補償ではなく、カモが育つ環境を守っているということで、逆に奨励金が出る。そういう政策が日本にはない。例えば、コウノトリが稲を踏み荒らすことがけしからんということではなくて、むしろコウノトリがやってきた田んぼには餌が多いわけだから奨励金、支援金を払うなど、そういう大胆な政策を生物多様性ということを大事にしていく以上は考えなければならないということを強く感じた。これはあくまでも私の感想である。

（６）概要版（案）について

●事務局から資料４に沿って説明

(委員質問・意見)

○３ページの一番上、検討中とのことだが、「本県は豊前海、筑前海、有明海の三つの海に囲まれ」とある。図では響灘、周防灘とあり、本冊では豊前海、筑前海、有明海となっているので確認いただきたい。

○５ページ「行動計画」の最初に、「2050年の目指す社会の実現に向けて」とある。概要版では、いきなり2050年と出てくるので、これだけを見た人は、なぜ2050年だろうと思われるかもしれない。本冊では、20ページの「計画期間」の８行目に、「なお、中長期的な目標として、2050年を見据えた将来像

を設定します」と付記されているので分かるけれども、概要版ではそれがない。２ページの一番下の「福岡県生物多様性戦略2022－2026とは」の「計画期間」のところに、本冊と同じように１行加えると分かりやすくなると思う。

○海域の名前は御指摘があったとおり統一していただきたい。福岡県として、行政的に使用しているほうで統一することでよいかと思う。

○戦略は、大学の授業にも活用している。生物多様性は漠然としていると言われる中で、身近な話にフォーカスして、実例もあって分かりやすいし、いろいろな研究調査から政策までが分かりやすく書かれていて重要な資料だと思うので、教材としても活用する余地がたくさんある。改めてそういう意味で現在の戦略も良かったし、今回も配慮いただけたらと思う。

○３ページの福岡県の地図。これだけでは全然面白くない。例えばメダカの地図があったが、そういう地図を掲載すると、福岡県内でもこれだけ違うということ、これだけつながりがあるということが分かる。

○４ページの絵について。例えば、本文の103ページにある、お互いのつながり、行き来している様子などをイラストの中にでも表現できればいいと思う。都市の住民が田植えをしている、田んぼの周りで都市と農村の子どもが一緒に遊んでいるなど。あるいは生きものも、田んぼで生まれた赤トンボが都市の学校の校庭や公園にも飛んでいるなど、そうした生きものたちも人間も農村と都市を行き交うということをもう少し表現したら、もっと面白いかなと思う。これは私の提案である。今さら絵を描き直すのは難しいとすれば、105ページのような文字、あるいは円などで囲うのもいいと思う。

○４ページの絵について。先ほど第４章で指摘したとおり、ここでもネットワーク関係が少し見えていない。特に概要版のイラストは、イメージがとても重要だと思うので、人とのつながり、生態系のつながりも分かるようになればいいと思う。川沿いのコリドーとして樹林帯や河畔林をもう少し入れると、つながりのようなものが見えてくるのではないか。

○地名やお祭りの名前にルビがあると読みやすい。

○生物多様性情報総合プラットフォームなどのURLやQRコードがあるとよい。

○ルビはぜひ。URLとQRコードは７ページの右下に入れる予定になっている。

（７）戦略策定スケジュール（案）

●事務局から資料５に沿って説明

（委員質問・意見）

○写真に関する意見を事務局に送付しているので、可能な範囲で対応いただきたい。

○議事はすべて終了した。委員の皆様には長時間にわたり、また長期間にわたり円滑な議事進行に御協力いただきお礼申し上げる。

全体を通して、新たな５年ということで、最近、災害や様々な地球環境問題が起きている中で、この福岡の戦略をどうするかというところで始まったが、委員の皆様の御協力のおかげで、大変いい戦略にまとまったのではないかと思う。あとは、これを実際にどう運用していくかということで、県の各事業のしっかりとした推進をお願いしたいし、県民や専門家の皆様の御協力というか、足りない部分が多分たくさんあると思うので、随時情報を交換しながら、また引き続きお願いできたらと思うところである。

以上